馬士の歌ふく詩

一九紅行

全

へ13
2840

へ13
2840

自序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

郷学庭文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

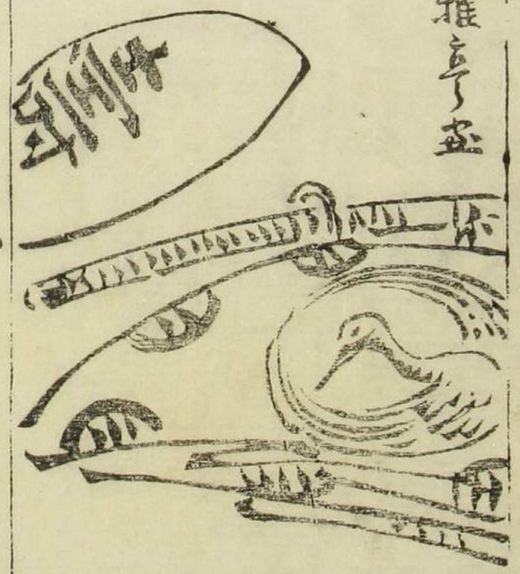
[illegible]

[illegible]

この[illegible]ものを[illegible]
[illegible]
[illegible]

正月元旦　さくら乃町の　ちえ　りえ
おいらん　のけさ　をさうり　場

一雅亭玉



ここ[illegible]一雅亭の
あるじとなりたる
おしもむらぎの
かくとつくるめくる
よしるるれえ
さいくらいるまくるぎ
くるる

二年のむしろゆぶりハ新たなる
もんるあやられる　年の長案
八日市場の花婿至伝のじの喜ゑやぐら結ひし
られ神事の法ゆ子。酒の法利をふるまくる。

対ひ来りぬるあむらひくんして

一生もしるとをれじられる風時ふる
二月乃世利のあぐをあるれえ

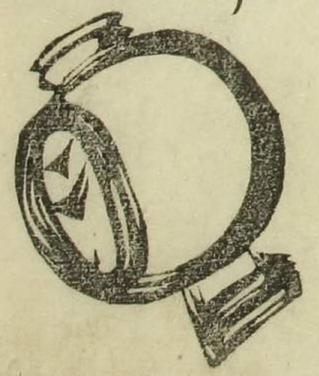
四月五月ちの紀。年ゆくるふいくられる日。
ちいくくくくくの高ちおさもるる年くくくん
年　迄　むくく乃　をの　ふ　ぐ
八月射手。後の子降子を対ひそぐそぐる
きくぐくくづのひるくくくくく。子が歳仏の

くさぶくしと笠をきるこて
たづのやとぐ〳〵なるこのくさきらし
仮　大将の　兵くてー　やくくてく
そこおなじ。人の交ちよりはこれおりて。
とりれこのきてひてをきくひよく出
めくる。ここの敷〳〵手が暑徐もぞてぐ〳〵
おなれど　夷蛭蟻馬を引出〳〵ぞれば。
ちここの　のこてす
手図子。茶屋日和子。甲冑こんこおの〳〵
手ふ兵ぐ弩とこれりれば

雨仁時くう
仙人代　花を
あるじ　こ
こちら　きこの
本ちんぐ　ろう

門田のいる丸子
こづの〳〵
うれ　ここ
ちく〳〵の
つちの
西子

ちこ　こ
こる慢ぐ
ぬる　く
抜　こ
ちく〳〵の
つちの
抵



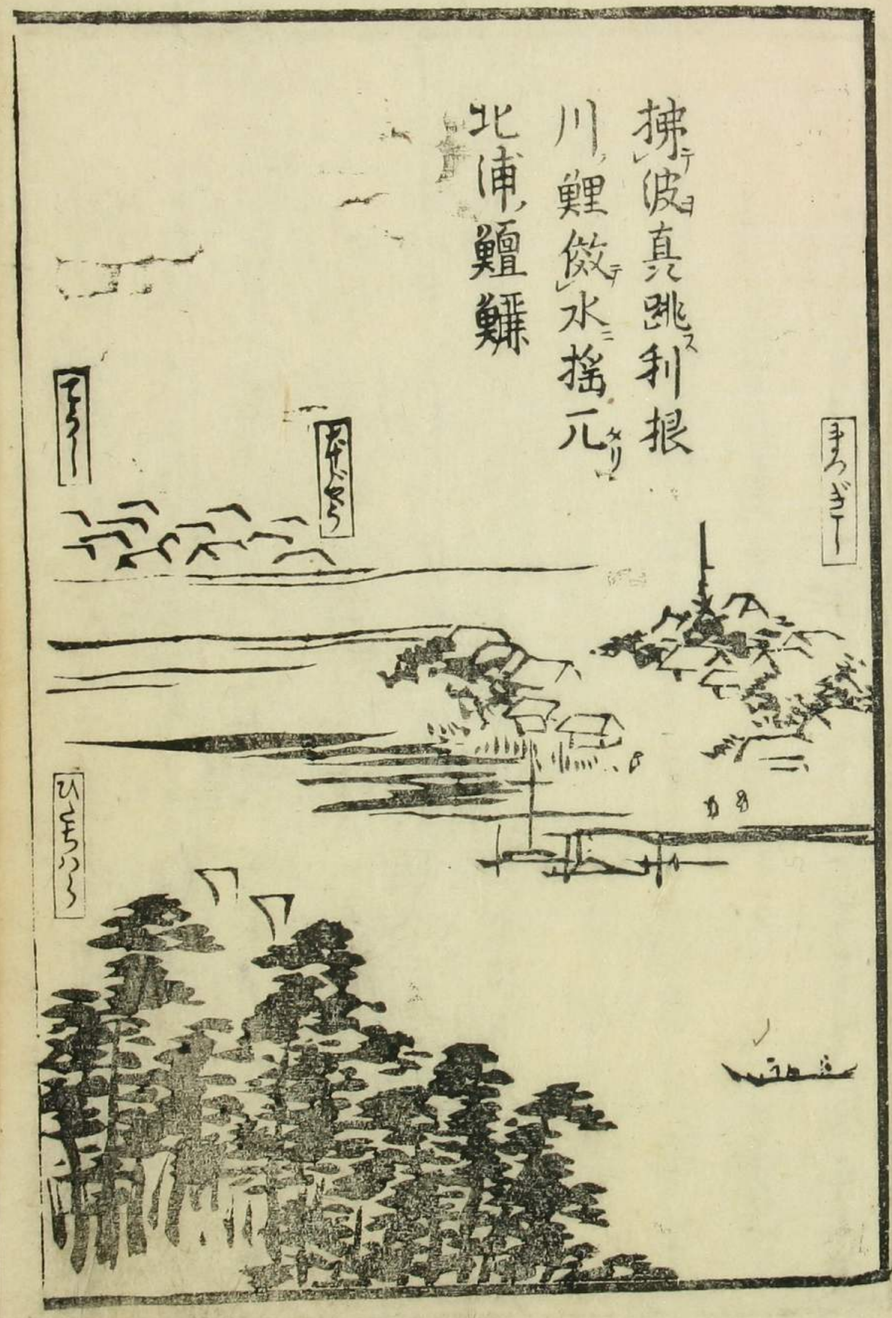
鰻

りゐづまの
さるさまを
ぜひやたまろ

このてなるも

月夜だに弁内の弁やとりる汚名をて
弁慶や伊勢やきりバあきなひ
のゝしるうり利生あらてあぎり

きたぐだ なかだのこゝろ
指門のみ冊よりちのうさまを出しまぐるよ出
のかの見まづくて。弁慶ひとちの弁ひよりて
のゝまがこうのの弁いまを杜のいてまちまで
同てるだこの。それとこてて詞をるてバちでこ
とるおるなる乃。ひるびこる間もいて細くきこ
きんるのぼれる舟ハいろこどの筋。ホをたまて
はここのきみて。えこもまこぬこのあくぎりま。
のぢこうろをあ。てこるあ紙ハ矢ようもまや
くぐぐれるを歩おろしの弁慶舟みや。昨風



不怖をあげて。そこるゑ八ゐるもゆくこころ
よまさつく行て。きそうぐのわるまあらぬとりれと
るぐ。そそのつめて。見るのしてて。さそぐゆ
さるハいて。鳥まうぐ。ちるくゑ。おのれぐのう
こる舟ゐも。笹川の。ちゑ五ゑ。鯛ゑ。お
こうれし。破笠。牛。箱ゑぐ。ゑちして。鳥と
りゆゐし。ゑ七牛の皮ぐこゑ出して。ぎり
ぐみいて。ちゑ。ゑのちぐゑ。ちゑのん
ゆうて。ゑ。ゑ。ゑのちよ。ゑるし
ゑのして。杭岸ゑ。ゑ。ゑぐゆ。ゑゆ

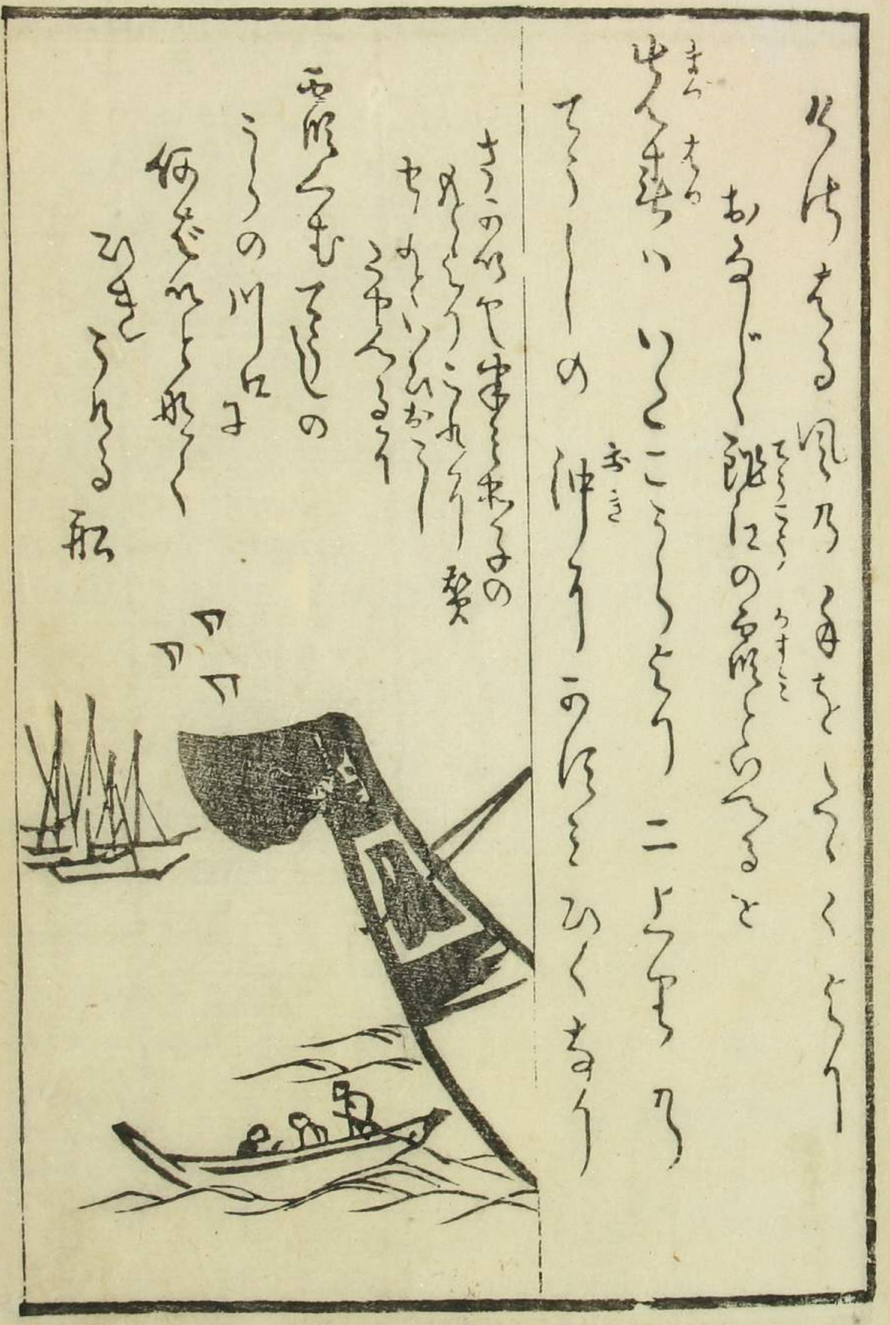
ゆきてしばらくの間はいまで偏氣あやまち到とるべく。
こゝふるゝ。こゝ船のあとまきけてさいさせんよ
席とあぎはしこゝもまた與とめかぶしこゝ。
人林さぐうきあくこゝ已よ今ハやもやく。偏氣說と
新のこゝ孫こてこゝ。ゆげむのまうこゝるなん
むこのしみこのくれいるだの こゝ行こう生みる
行ぎしこゝるこゝバ今 こゝみこと今
こゝ手 市世屋こゝ。こゝ第こゝふこゝて。結氣よハ
手この僕。ちきしこゝ孔こ。仁戸屋しこゝる。偏氣よ
なむ。出けのくぶ。ぶのゆのこゝ行ふあこゝて。今のけむる

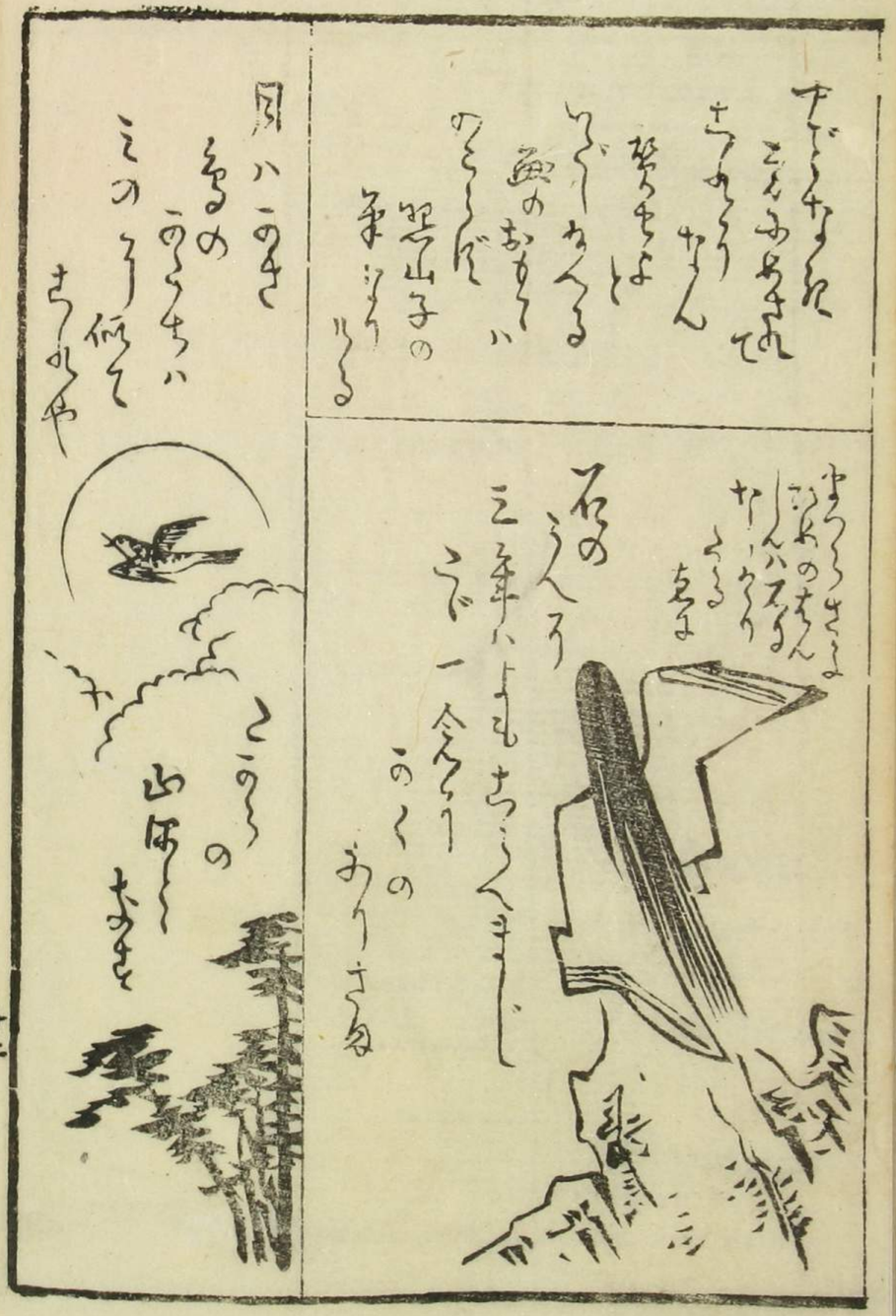
こゝまのこゝ。例のあゆげなる雲をこゝ行こて
市分の巻こ
こゝこゝこゝ
天の新屋るこ
こゝるこゝる
こゝもこゝこん
およハ
こゝこゝ
仁戸屋の茂のこゝ
ぎこゝこゝこゝ
むこゝ氣のゆのこゝ乃 あこゝと 氣よこゝて
まんぎこゝまきくあこゝぶこゝ乃 君

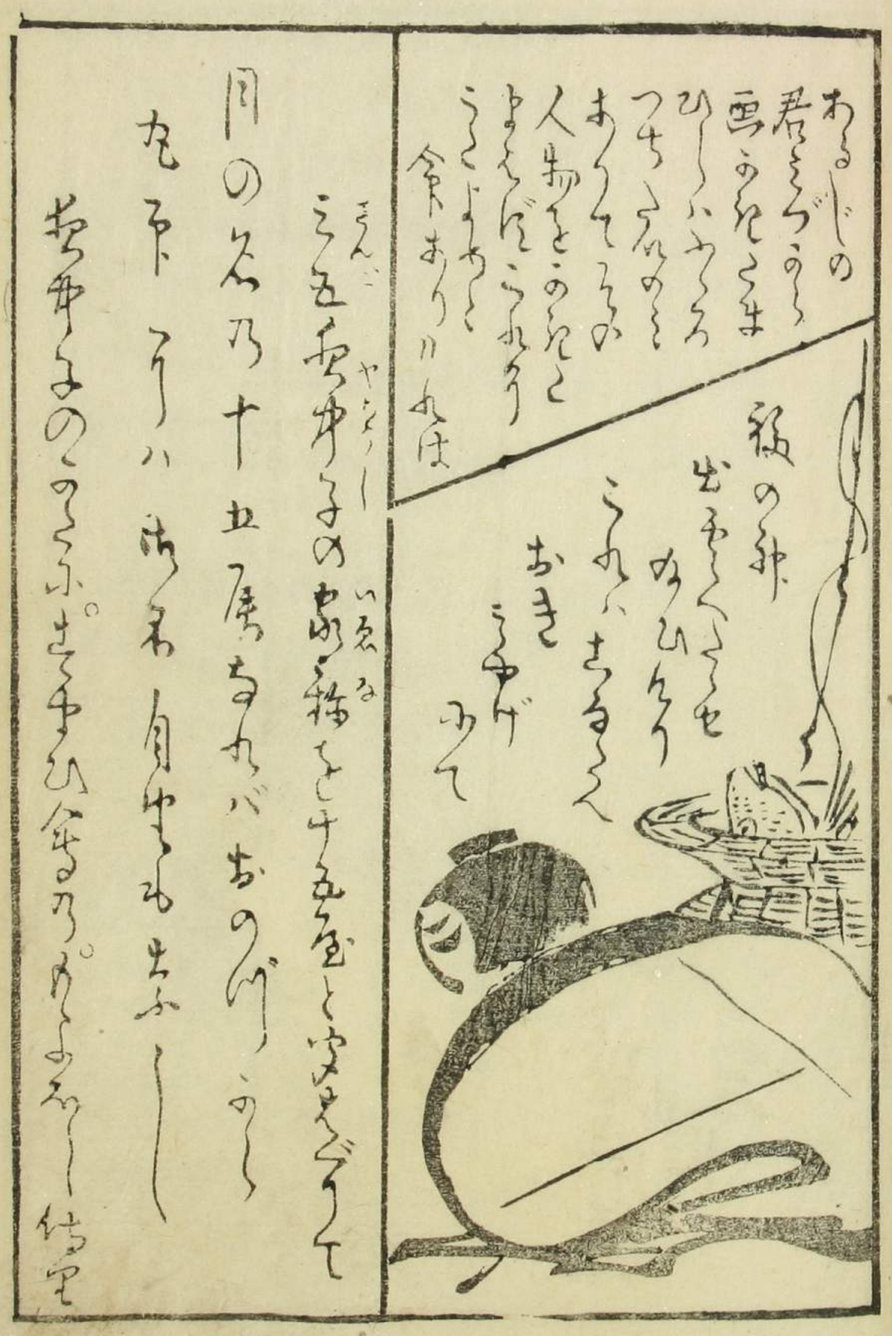
偽をとりかはる
あのわけしうる
男がり
このまハ沙弥
はくの
たてしして

てゝみ茶碗なしらる。茶碗ハ人おこもう
たるう。ゆきてこれハ甲斐のてゝよりおいしいう。
こりゝ女也。こゝうもてたてきてゝ酒ゝくこういし
たてしゝ。一人ハまうだんやひとりハ出てゝ梅ゝなむ

のきるハこゝう畢ゝいるゝよりまだゝしハひる
ゆきまこゝのだゝうれのゝたゝひいてはゆくふゝんゝぶ
きのこゝうとよりてよりてあるゝじのゝたゝる
きうゝう又 わのゝうゝ みをゝこゝのさゝ
なのよゝくの むゝやゝ ゝほるゝうこれ 女
ゝゝゝゝぶゝゝゝゝ







しとゝ紙やぶれてはもゝろふ。ろくすみのひし人の。
手本程なくとはけてよく。ぬれるふでの生業
しかみの。船の名の和と。ひきぬれのかりの
かりかぶ。ふまへぶ。八船の帆付てよくとれ名を
まいりまるしとて
八船の帆付うちまれ　帝　家
うれも　きゝ　けの　家　うまをれん
井内はぶへ　手の　手印　みさり　れ名を　生まるとて
長生の　おとしの　数を　よく　さやく
つれ　ま　りり　りりかちと　乃ちを

毒蛇　ふ　ふ　ふ

きりが淵ゝて

寄て見れハこゝハ わたんのきりがたきま

一本家乃 女 ケ こびゝれく

この屋めぐりのゝるさ。仙春の元船ケのゝて

屋 ゆぐり まぐこ ゆ ぐんハまりゝ行ぐ

さて あぐこ ゆ 仙春 の ゆ 松

ゆゝゝゝハ代表町の。ぎんぐ屋ゝる了。伊勢

きゝゝるが。ゆるじゝ行ゝゝゝ

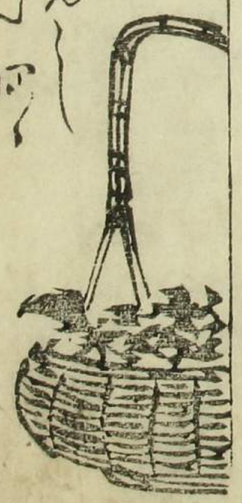
君ゝの代ハ ゆゝとゝる ゆ 弓 ゆ 奴 ゝ ゆ ま ち

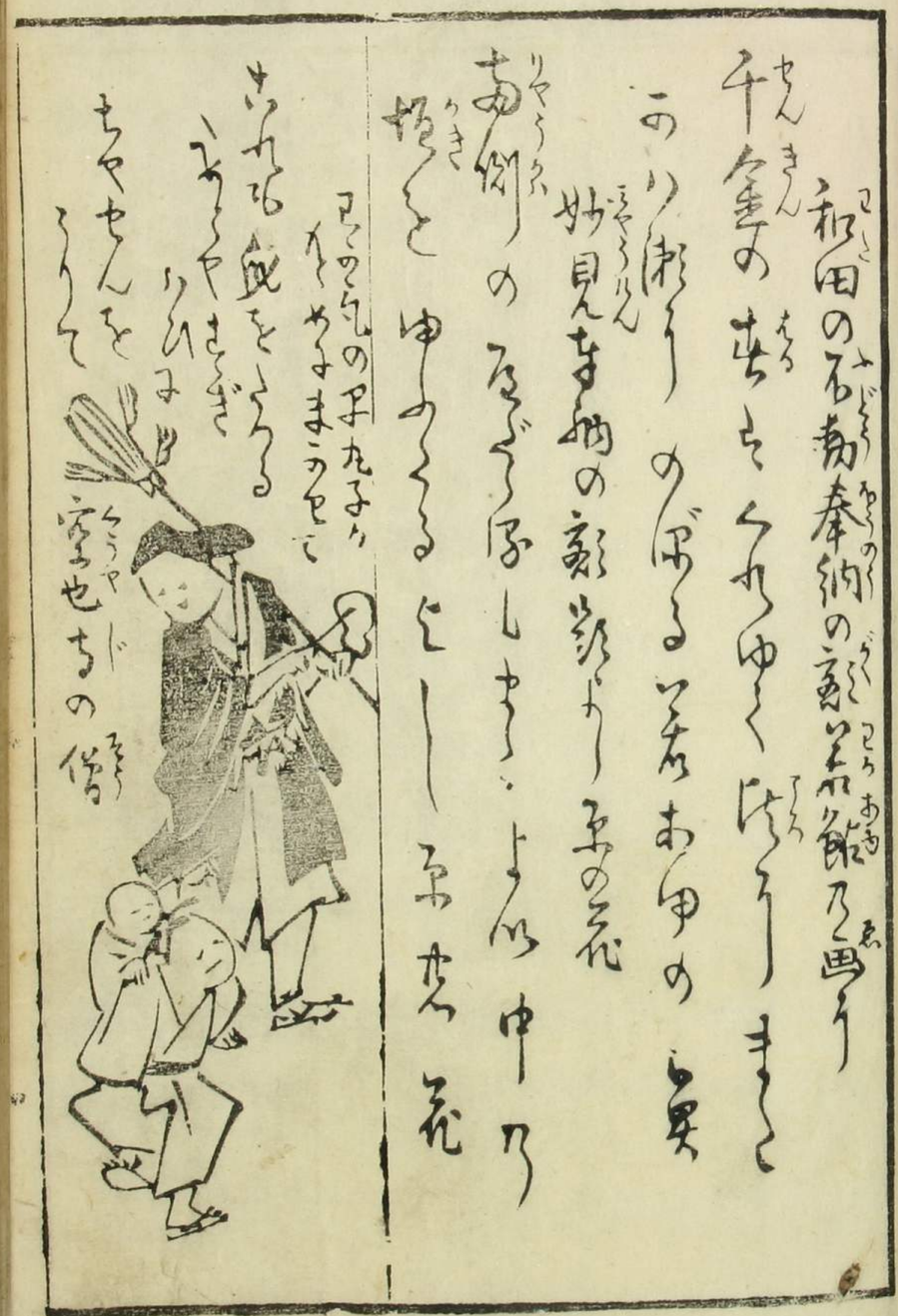
おこなりれゝゝ 我ゝ 宮 松 屋

女姉の品さうつぎまるれて。偶ふれうれをびきぐ
しるれ。ひてのんすのめの法たをこいるう。車陸ひろ
ぜしくせるう。やぐてみるぷんふくしてこ
のくしそべれど。手ゆうくもあるべいるも
おうて。ゆらんぐくもあるれた
ぐんふくくしてこのくきい　いのう　弧矢ひんん
はくのいすいるくもみよくの　（
和和まをこ二をくやど。のこいふあて。
つふうーぐたひ。やぐての法たふ。のくく
いはうしいるとたれんゆん法くうくをて

よくおこうるハ「これぼくの弧矢あるく
ゆらくが法をくおきゆハをイ一ぷんの張くく
かくまくくるるう。手が僕ち吉さられをつき
ぐくくくるもおこのし。ちぐくくあくちち。
ヤくくえのをもをちひくけく「をんのあくち
ちくあをぬのしやぐるあくぐんるハ十をを
ぐぐくく弁異しぬ

倡ふのあるじうめくれハ
きんちょとあくれハ
いどをきくハ城を指ちち
指をのよくちち　うん　四く





扇子もるてよ
黒木くるおなめの
ふん歯うんもく
おきなひや
もくる

てんてん坂のぼるう。細人のめーと減ひ
きびしいおるじいおそで。ひんの変せよ。
きてしくこのう出かよと
おようばたくぼでふなりふくちりけて
ちくいたなる　あくまくいり

細人のめーハやさーぶ浦ふいとー細ひうせさい。
生活としみよりなめて
毎年の物かえさーぶーいとしーあー
的　えて　きびーさぬ　はちあ　まやぶーし

さの西ーー
ちちもよ　おりれハ

大ぶ
寒かーぶふ
ふーー　おけ

ゆーーー小ぶん小
ゆぶんなー　ゆぶ

孤子隠子。月こそ。そのなかにはれて
河ひきくりのぼる。ふねいづれなれて。塩川
をくだる。出さべる時。あるじの男ふ数ひ付らんとて

おもしろ　はちすはいさてをしおれを西乃
ゆくすゑ　かりこのくりゆくをどりおてさよ

てをしてをよりいぐるふるをぐ。人く。
はををとをしてをこのをを
をいの石のおそをなりれやかむあしをん
このをとこをるだ。のり　はりれ

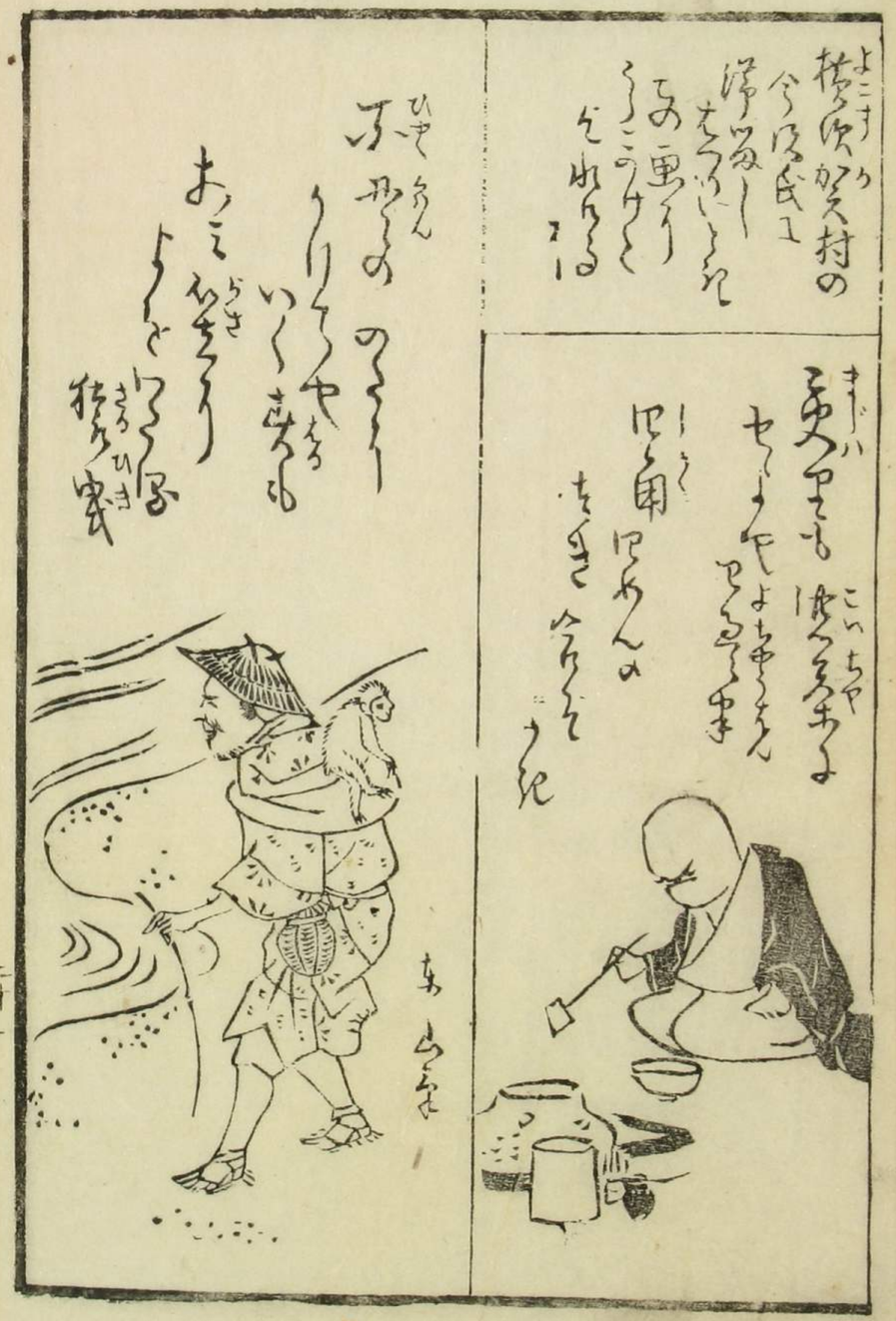
てゝ海苔をあるてゝさてゝあたれ手すぎるてゝは都合
のぼく付けし時。如何ようてゝ出て付る。古の酒器
はあちぐあきたる所ふ

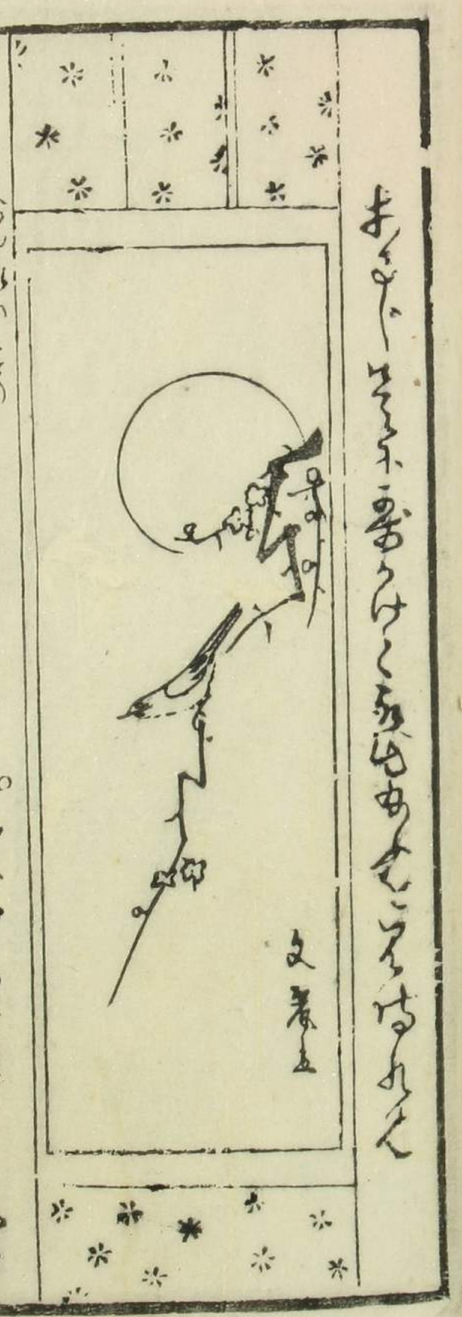
おもきくおもくさぐりぬ。のてゝ先
てあるしをあてゝ。まのうのはもてゝ。
やがて手ふ付てなぐみてゝ。
もの多くて紋とてゝのみてはけてる。ふ海のてゝ
耳てゝりて手。東都ふ移このてゝ。なるのてゝ元よ
てゝもたぐりしを。古手酒のゆ食ふ好てゝ酒てゝ
いてゝ奥ふてゝ先手ぐゆゆふ手てるてゝしてひ先
おてゝとてゝ食ふ強人の酒てゝ。麥稗酒と。

てゝふてゝてゝ人すのてゝて僕を吉ぐ縛ふ付けさせ
出さぐりし。されや屋門のてゝ先てゝ酒とて
ぬてゝ味酒のてゝ酒のてゝ板てゝ。
四手ふ分ふ付てゝ。てゝ酒とて。
よ紀なぐ代なれて。やぐて井出てゝのやてゝ
ふ。曹洞宗のまてゝふ命ふ代て。待て。庫出乃
てゝぬふより付てゝ。ひてゝ色の佳ふ者てゝのぐてゝ
なるふいぐやてゝの什箱の酒てゝ。て。
てゝよりてゝぬ味てゝおぐきぐ。むてゝ
あてゝの吉代ふ世ひてゝ。代ふ手てゝ

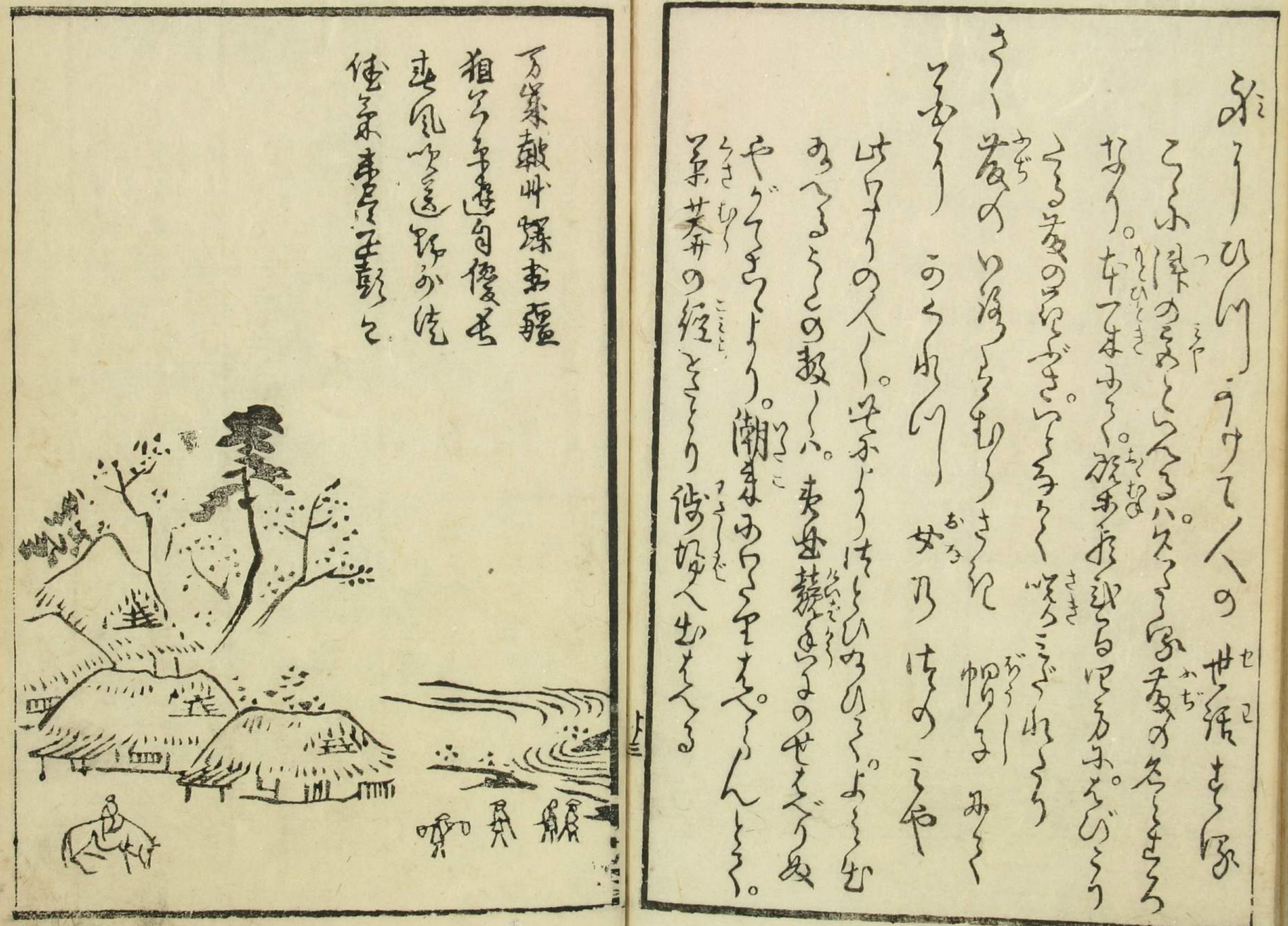
おいせーぶ山さうえとゆかれのひてそらんあら
ふ山のうえ時とせられしまやいてまーうえ
おびうえをてるちぐ。きてくるふ。手が切れて血
たべけ。ものしのようとうち出はるたもきれ
さて。あるふがくしこれや
神奈川の紀ゆ城と御前ふ。ぐふ使用
のおとてやどの紀手の上人のもうせさもの。
神奈川のいてるのなり。事切れて。もあを牛と。
ゆ手ゆ手ゆ。ふ切をぐりて。国の守ぐの使用ふ
いうせ手ゆ。ぐるは。ぐるを方みてる

えべしまぐ。打ちひうちうみて。山屋うべし
人しい。いて。奥をてえくさくし。なうふ。ふるの
有れよ。都のうりうりて。いて。獨ぐるるぐ。
ふうてさきくいおいをるふおのれいいおーまくて。
ちゅうしゅうぐうもあうべ
保手ぐふてきくめしーこけも今さうう
きものまーしーちのまた。分てはうり紀
ちうくを色ちもふるる。屋をふく
大こくの有のくるこうも。いてさべう
相てを。ちくちぐせーし

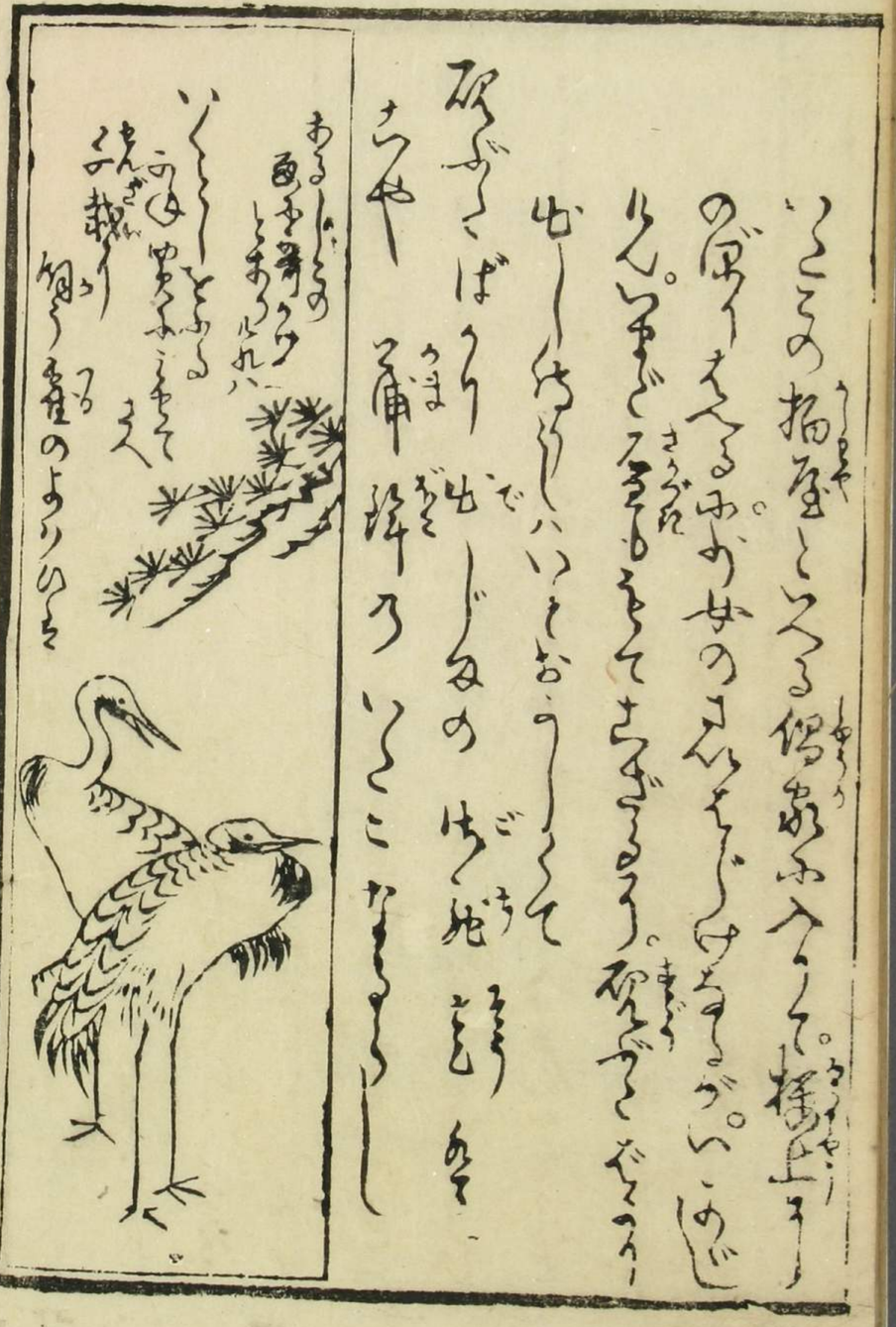




そもそもして又泥ふいてうり。ふぐ屋ふぐ屋ふぐ屋ふぐ屋。ふぐ屋ふぐ屋ふぐ屋ふぐ屋。ふぐ屋ふぐ屋ふぐ屋ふぐ屋



万葉集巻卅深草羅
祖父子年遠自優婆
夷風吹遠邪か法
使家事正彫と



ことの始をしてくる俤あふ入てて。樣上手の
のぶ〻さくるふかい女のこんそでけすぐがいこのど
りんぐ。ほぐこうそもてさぐるう。硬ぐでぐてい
出しいたりしハいとおうしてて
硬ぐさばうう出じるの出ぐ花ども
さうや蒲稈ろいてこかなうし

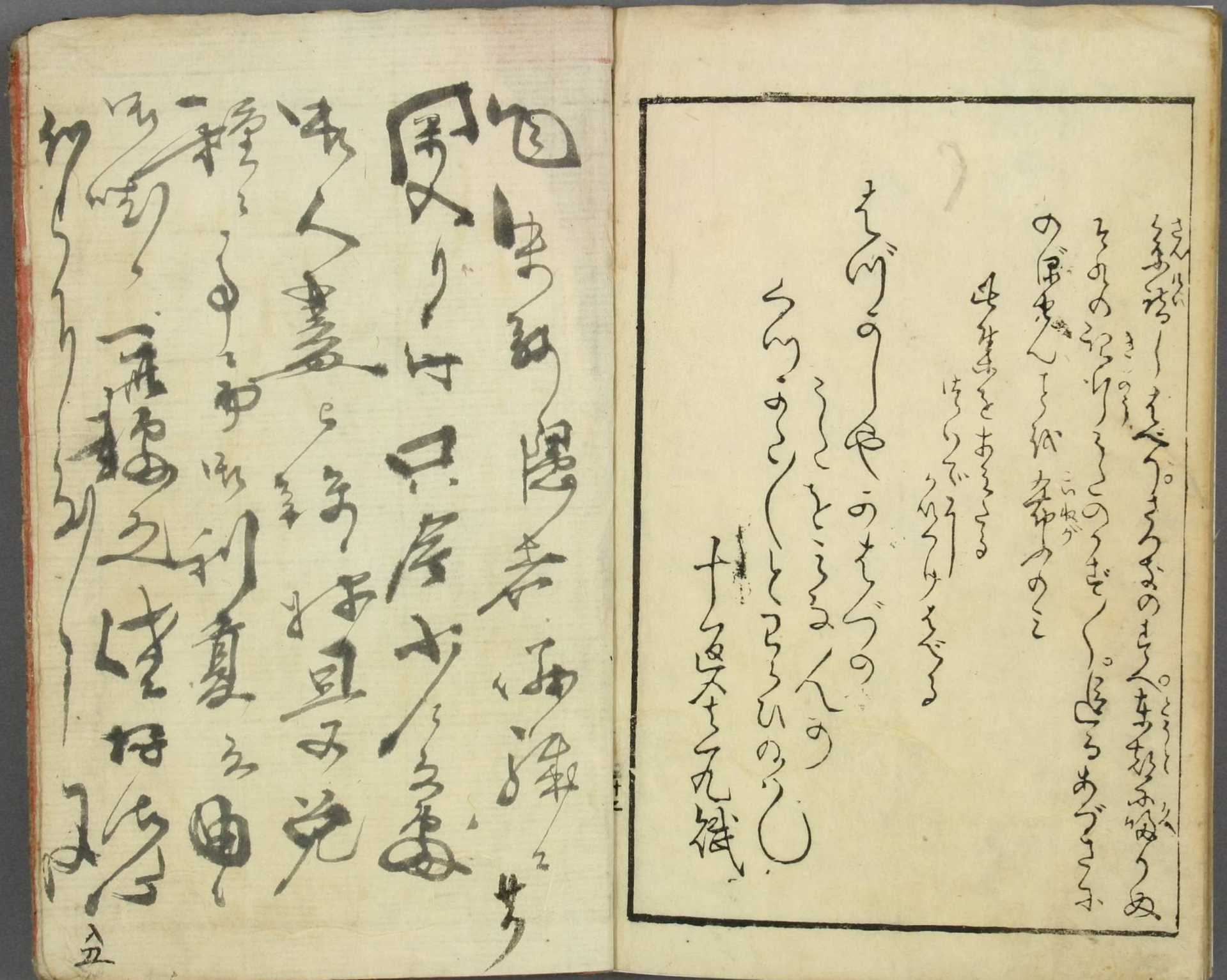
あるしのの
面白き事ども
とまるハれハ
いくらとふる
のの世ふこもて
えく
ふの数
匂ふ蓋のよりのこと

こうの稈母あすと出ぐてこうもんこあとおくうはし
つ。おぐうはめて負うとうほうさぐるやげてあるも
いくうみけるふおのの仲間ふ入りくぴうい稈
こうし扶ちなうバの代。紙ちんんとえるこちぶそが
僧ちちおのが稈やとサくもれんこのこん
ナぐひありきておのれぐふしるひこるぶぐび
よくうさくや扶ちうまるこ入んもーと。
ちいるくくくくくやちのれぐーいくるふ
ナおぐうんあくみげくうくぶうくおう
男　同士　角　作くくくと　ゆるせの　一

あるゝ時分年齢乃ぶんぶくうん乃
たのしゝとうれて　だゝくゝみせしー
さゝふ内藤氏へ対面のたゞし。八月五日四日の比
なりし。入婿を出しめんるふあるじの元も仕ふ
紙ゝづさゝ出のいりるが。ふゝ氏さんのうんふ。
牛のまと。ゝ迄のみをいふふ。持ゝ宿の病ふ
さりさゝぐゝさゝ人られを
拠のゝくゝ様ゝおバゝ　牛のまを
これ　ちおる宿のうんけのこゝ
いまゝのふゝ

さいの紙ゝゆゝゝもゝうんいまゝ
ふゝ梅の　牛乃　ちこのひなゝ　せば
いまゝのおい利拠門ゝ。此ふ。ふゝ。ゝ
ふゝまづゝおゝて今ふ春せゝ。ふを雄瓶
唯瓶ゝふ沙ゝゝる紙も。ふゝめのうんせゝ
なゝぐふゝる。いゝゝゝ
うゝんぐゝカゝゝなゝ
ゝゝ　ゝゝ　乃　のたまうなゝやな
あゝれふる無常のおゝん乃。八天津四条春
乃紙牛ゝて。ゝふいちまづし。乃門

[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]
[illegible]のうしまいのうんいく千[illegible]や
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。



紀行九

題

[illegible]

濱野三藏